

すべての人に 健康と福祉を

地域のNPOが
自治体や関連団体と協力し、
子育てをサポートしています！

貧困や虐待など、子育てが困難な家庭の支援や就学前の子どもの居場所づくりを目的に設立されたNPO法人「子育て応援隊いっぽ」。子どもの命を守るには保護だけでなく、親の育児への考え方や行動も支援していくことが必要、大切との思いから、若年出産した母親へ家事や育児の方法を教えたり、キャリア

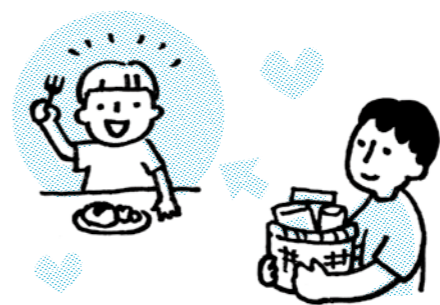
アップ講習や就業支援を行うなど、民間組織ならではの柔軟性を活かし、多様なニーズに合わせて活動範囲を広げられました。育児で困った時に気軽に頼れる相談先として、「いっぽ」が行政や社会福祉協議会、保育園や子ども食堂などと協力しながら、切れ目のない支援を行い、子や親を支えています。



小規模保育園での巡回公演や、より良いサポートのために行う先生たちとの研修会も盛ん。

食料寄付を募る
フードドライブが
加速中！

県内の高校生や大学生でつくるボランティア団体「VONS（ボンズ）」。「コロナ禍の休校で給食が食べられない子どもや食料調達が困難な家庭があることを知り、「MUGムグ（むぐむぐ）フードプロジェクト」と名付けた活動を昨年5月よりスタート。商業施設などで食料寄付を募る活動を行っています。寄付された食品は、SNSを通じて集まった学生ボランティアが仕分けをし、社会福祉協議



会を通じて必要としている家庭に配られます。
VONSの代表を務める大学生の鳥袋さんは、「若者が自発的に困っている人を助けられるような地域にしたい」との目標を掲げ、学生や若い人を中心に活動の輪が広がっています。

誰もが安心して、健康でいきいきと暮らせる社会の実現のために。私たちの住む沖縄には地域で協力し支え合う取り組みが沢山あります。



「誰もが健康でいきいきと暮らせる社会へ」との願いを込め、県民が自ら健康を意識して、笑顔で運動を楽しんでいる様子を表現しています。

子育てが困難な家庭の支援は どう行われているの？

健康・長寿を支える 学校があるって ホント？



名桜大学の教員や学生たちが
地域の健康を守っています！

北部12市町村の健康増進をサポートする名桜大学の健康・長寿サポートセンター。地域住民が無料で利用できるエクササイズやヨガなどの運動プログラムを、学生が提供しています。利用者の中にはお年寄りも多く、継続して通うことで骨密度や筋肉量がアップした人も多くいます。

また、看護学科の学生が中心となる朝市健康支援活動では、公民館の朝市や共同売店などに出向き、健康測定・健康相談会をオリジナルの健康手帳を活かし開催。他にも、子育て相談会や子ども向けの食育劇を行うなど、幅広い活動で学校と地域が繋がり、交流を深め、地域の健康増進に貢献しています。



健康体操のイベント(写真/左)や、健康相談会(写真/右)の様子。

私にもできる
SDGs

余った食品が、
誰かの明日を助ける

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品で、困っている人を助けられるかもしれません。缶詰や加工品など、自宅に余ってしまったものがあれば、フードドライブに協力してみるのも私たちにできるSDGsの取り組みの一つ。食品ロスや環境への負担を減らすことにもつながります。また、最近では買い物した収益の一部がフードバンク(余った食品を引き取り、福祉施設等へ提供する団体・活動)の活動資金にあてられるショッピングサイトも登場。身近にできることからトライしてみませんか？



お揃いのウェアを着た学生たちの笑顔がすてきなVONSの活動風景。活動の際はオリジナルのポップを用意し、1日に1000食近く、多い時で2000食もの寄付が集まります。



近所のお年寄りの
健康を見守る



人と人との繋がりが希薄化している現代ですが、誰もが安心して、精神的、社会的にも健やかに過ごすためには、地域との関わりも大切。例えば、独居や外に出る機会が減った近所のお年寄りに対して、困っていることはないか声をかけたり、少しでも気にかけることで、体調の変化への気付きや、閉じこもりの予防、心の安定にも結びつき、健康を守ることができます。

私たち一人ひとりのちょっとした心配りが、みんなの心や体の健康に繋がる、これもSDGsの大事な一歩です。